

応接間 (8)

3番目のスイートも同じスタイルで装飾されており、もともとオーモンド・コレクションの一部だった絵画が展示されています。



8

カンチレバーの階段 (9)

この階段は、19世紀初頭に、アイルランドのウィックロー産花崗岩を使って作られました。西の塔と、すべての階の中央ブロックにアクセスできるようになっています。



10

青の廊下 (10)

16世紀と17世紀頃、ここはギャラリーでした。当時、バトラー家は、アイルランドで最大の規模を誇る500点もの絵画コレクションを所有していました。



11

ヴィクトリア風子供部屋 (11)

この部屋では、19世紀に生きた子供の生活を垣間見ることができます。子供用の椅子、揺りかご、ベビーベッドなど、その時代を彷彿させる家具をはじめ、当時の特権階級の子供たちが持っていたであろうものがすべて揃っています。



12

青の寝室 (12)

タペストリー・ルームの真上にある、北の塔のバルコニー付き寝室のひとつ。この部屋は1904年にエドワード7世とアレクサンドラ女王に割り当てられました。

中国風寝室 (13)

青の寝室と二重の扉でつながっているこの寝室の内装は、手描きの中国の壁紙をモダンに再現しています。



13

ムーア風階段 (14)

ムーア建築をベースに、不格好な形の建物の中に設けられた大階段には、自然主義的な葉っぱや小動物のデザインが彫られています。



14

ピクチャー・ギャラリー・ウィング (15)

建築家ウィリアム・ロバートソンが19世紀初頭に行った建築計画の一環として、初期の頃の城の土台に建てられたものです。



15

大理石の暖炉 (16)

J. H. ポレンがカララ大理石を使用して中世風にデザイン。葉の彫刻は、チャールズ・ハリソンが手がけました。



16

QRコードをスキャンすると、各部屋に関するより詳しい情報を英語で読むことができます



ウェブサイト: www.Kilkennycastle.ie
ウェブサイト: www.heritageireland.ie
電話: +353 46 942 3249
Email: kilkennycastleinfo@opw.ie



Design & Print Modern Printers Kilkenny 056 7721739



キルケニー城

訪問者ガイド



Heritage Ireland
OPW

Step Into
The Story

序章

キルケニー城は、ノア川の上で交わる交差点を見渡せる高台に堂々と立ち、キルケニー市のハイタウン地区で最も際立つ建物です。8世紀にわたり、増築や改築が繰り返されたため、現在はさまざまな建築様式が混在する複雑な構造になっています。もともとノルマン様式建築だったこの城は、13世紀初頭の10年の間に第4代ペンブローク伯爵ウィリアム・マーシャル（1146年頃-1219年）によって建てられました。その後、キルケニー城は有力なバトラー家のアイルランドにおける主な住居となり、約600年間所有し続けました。バトラー家による所有は、1391年頃に第3代オーモンド伯爵ジェームズ（1360年頃-1405年）が城を購入したことに始まり、第6代オーモンド侯爵アーサー（1893年-1971年）が50ポンドの資金と引き換えにキルケニー市民に城を贈呈した1967年まで続きました。一族は、1935年に10日間にわたってオークションを開き、城内にあったほぼすべての家具や家財を売却。1969年以来、キルケニー城は、国の機関である公共事業部が管理しています。



中国風応接間 (1)

1990年代に、1830年代の頃の装飾を復活させました。1810年に手で模様が描かれた中国風の壁紙が、今でも一部残っています。19世紀の社交界では、夕食後、女性は応接間に退き、紳士は葉巻を吸い、ポートワインやブランデーを飲むなどして、男らしさに浸る習慣がありました。



1

ステイト・ダイニング・ルーム (2)

この部屋は、1860年代にビリヤード場となるまで、城の正式なダイニング・ルームとして使われていました。通常、貴族の家にはふたつのダイニング・ルームがありました。一つは、正式なイベント時に使用し、もう一つは、普段の食事に使われていました。



2

玄関口の広間 (3)

この広間は、少なくとも、城が改築された17世紀から存在したと言われていいます。巨大なカーテンに壁が覆われた北側の出入口は、19世紀に二度も改装されました。キルケニー産のブラックマーブルと砂岩が敷き詰められた白と黒の石造りの床は19世紀に作られたと考えられています。



3

大階段 (4)

19世紀に作られたこのマホガニー材の階段は、地元キルケニーを拠点とするR.ファーニス・アンド・サン社によって設計および製作されました。この階段は、まずタペストリー・ルームにアクセスし、曲がってから2階へとつながります。



4

タペストリー・ルーム (5)

北の塔にあるこの部屋には、12世紀に建てられた厚い壁がまだ残っています。天井が鍵穴のような形をしているのは、15世紀初頭に中世の丸い塔に四角い塔が付け足されたため。このタペストリーは、1616年以降、ピーター・ポール・ルーベンスのデザインを基にして織られた「デキウス・ムスの物語」と題するシリーズの一部。歴史家リウィウスによって語り継がれた、ラティウム人との戦いでローマの勝利のために自ら命を犠牲にした執政官デキウス・ムスの物語を描いています。



5

控えの間 (6)

この小部屋とその下の部屋が位置する場所には、もともと石造りの階段がありました。吊り天井の輪郭は楕円形をしています。



6

図書館 (7)

内装は、19世紀半ばから後半にかけて流行した調度品のスタイルを忠実に再現しています。壁のフランス製シルクポプリンは、巾木の裏に見つかった布の残骸をもとに、フランスのリヨンを拠点とするブレール社によってオリジナルの柄と色で再現されました。修復を手掛けたチームは、幸いにも古い書類の中からカーペットの領収書の原本を発見し、元のデザインを保管していた会社を突き止めることができたのです。



7